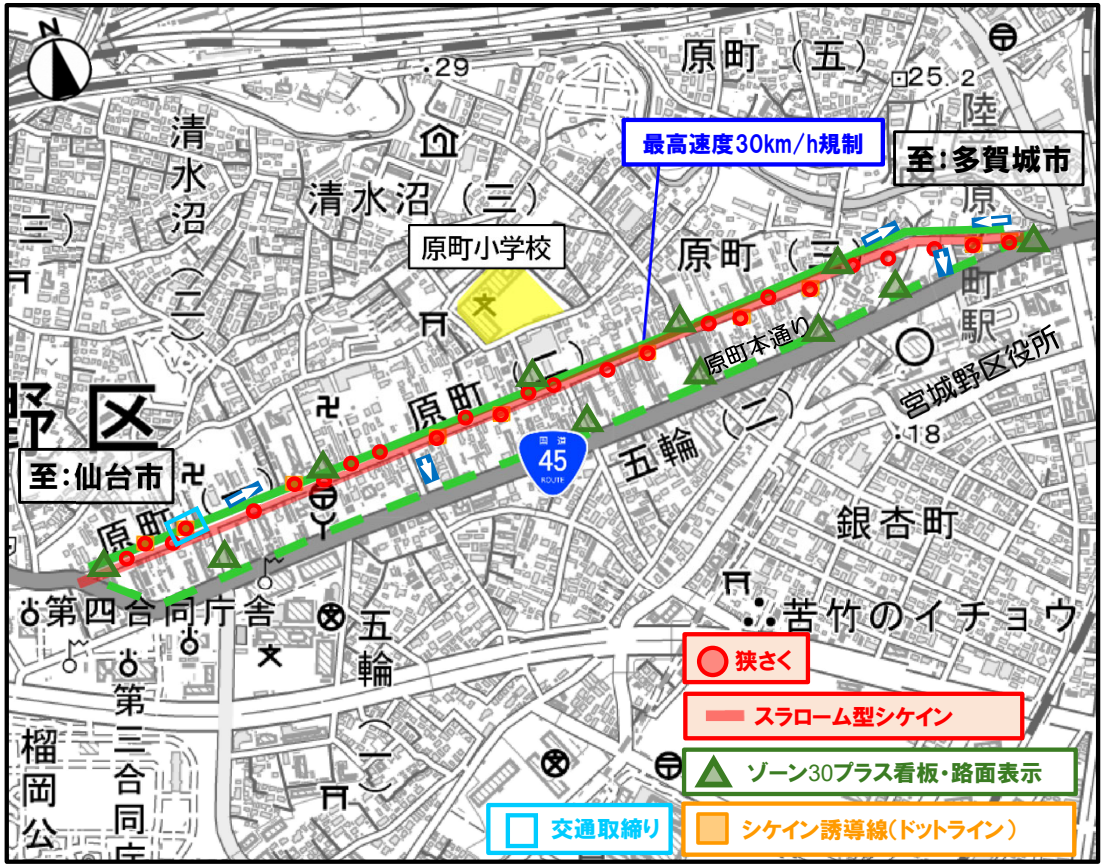
「ゾーン30プラス」の整備による効果事例（宮城県仙台市原町本通り地区）

○本地区は、住宅街の奥に小学校が立地しているが、国道45号坂下交差点の信号待ちなどを避けるため、生活道路に通過交通が多く流入しており、通学児童の安全対策が求められていた状況
○当該エリアにおける通過交通の抑止と走行速度の低下を促すため、スラローム型シケイン・狭さくやゾーン30プラス路面表示など、面的な交通安全対策を実施（R8．2月に整備完了）
○整備後には、エリア内の急ブレーキの発生率が約2割低下するなど、事故リスクの低減効果を確認

【エリア図】

凡　例

ゾーン30プラス	ゾーン30ﾌﾟﾗｽ看板・路面表示	物理的デバイス	規制等	その他ハード対策	ソフト対策
※破線は整備区域に含まれない道路	対策済	対策済	対策済	対策済	実施中
	対策予定	対策予定	対策予定	対策予定	実施予定



出典：国土地理院地図

【対策の実施状況】



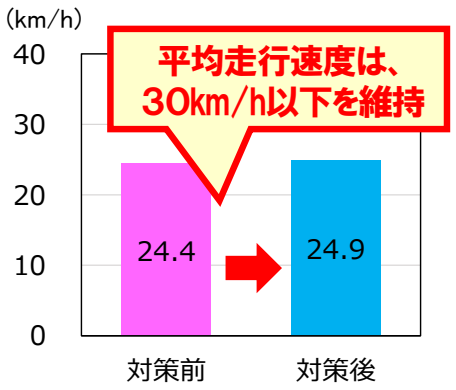
①スラローム型シケイン・狭さく
（R8．2完成）



②ゾーン30プラス路面表示
（R8．2完成）

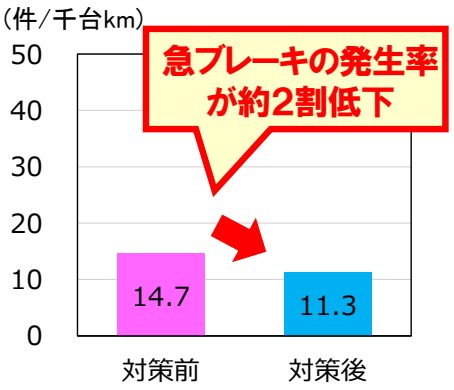
【面的対策の効果】

▼エリア内平均走行速度



※データ出典：ETC2.0プローブデータ
【整備前】R7.3～R7.4　平日（7:00-19:00）
【整備後】R8.3～R8.4　平日（7:00-19:00）

▼エリア内前後加速度（急ブレーキ）



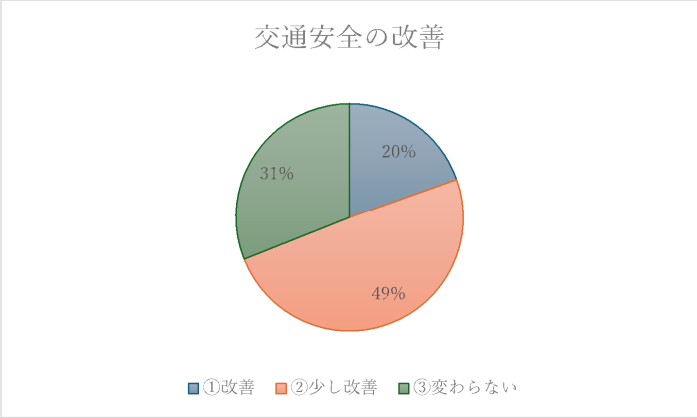
※データ出典：ETC2.0プローブデータ
【整備前】R7.3～R7.4　平日（7:00-19:00）
【整備後】R8.3～R8.4　平日（7:00-19:00）
※急ブレーキ：前後加速度 -1.0G ～ -0.3G

「ゾーン30プラス」の整備による効果事例（宮城県仙台市原町本通り地区）

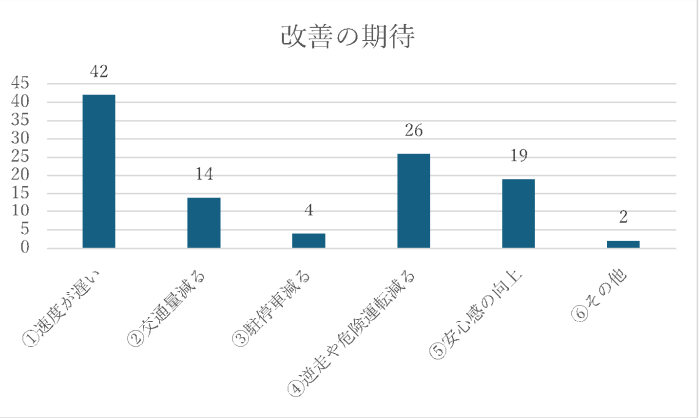
〇当該地区の通学路の交通安全対策について、通学路を利用している方が実感している効果を把握するため、仙台市がアンケート調査を実施した。
〇対策により、道路利用者の約7割以上が交通安全意識向上と交通安全の改善を実感している。

調査時期	令和8年3月～4月
対象者	主に原町連合町内会の住民
回答者数	105名

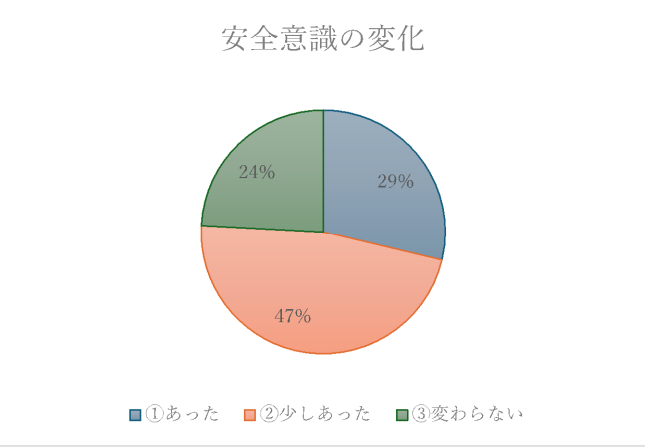
Q:交通安全の改善
→7割近くが改善された、少し改善されたと回答。



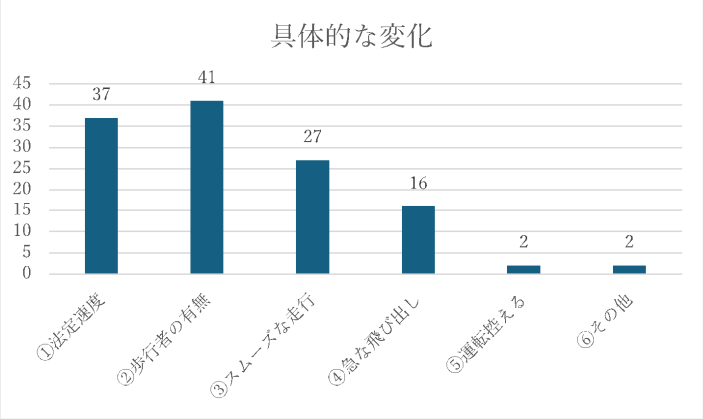
Q:交通安全の改善の期待
→車の走行速度が遅くなると回答した方が最多。



Q:安全意識の変化
→8割近くがあった、少しあったと回答。



Q:具体的な安全意識の変化
→「歩行者の有無に気を配るようになった」との回答が最多。



Q:取組の貢献度
→過半数以上が役立つ、少し役立つと回答。

